

《基調講演》  
《기조강연》

21 世紀世界化時代のアジア国家、  
地域社会の福祉的機能と  
役割の再定立方向

---

21 세기 세계화 시대의 아세아 국가,  
지역사회의 복지적 기능과  
역할의 재정립 방향

朴宗三  
박종삼

韓国 ワールドビジョン 会長  
한국 월드비전 회장

## 21 世紀世界化時代のアジア国家、 地域社会の福祉的機能と役割の再定立方向

朴 宗 三  
韓国 ワールドビジョン  
会長

### I. 序論

人類の歴史と文明が生れて以来、地球村全体と各国の政治、経済、社会、文化、国史、外交、福祉などは絶え間なく地球村の諸文明圏と帝国により影響を受けて来た。その代表的な例として、アッシリア、ペルシア、ギリシア、ローマなどの統治と支配の時代からスペイン、ポルトガル、イギリスなどをはじめとするヨーロッパの帝国の領土拡大と植民地統治で世界歴史の流れに影響を及ぼした。

このような人類の歴史は、20 世紀中盤に至り、産業革命と科学・技術文明の影響のもと、負の蓄積と新しい経済、社会、政治理念の台頭で、米国、ソ連、中国、日本など強力な世界の列国が対立関係を形成し、第 2 次世界大戦と冷戦時代という不幸な歴史を創出した。幸いにも 20 世紀後半に至り、地球村のいろいろな所で植民地統治の終息と同時にアフリカ、アジア、中南米の諸国が独立することになり、各国ごとに「国家建設(Nation Building)」という希望に満ちた人類歴史が展開することになった。

すでに私たちが立ち入った 21 世紀は、20 世紀の科学技術文明を基礎に新しい世界、経済・社会・文化・通信制度と秩序、そしてガバナンス(Governance)を創出し、世界社会と各国に大きな影響を与えている。世界化(Globalization)という新しい世界秩序の波は、地球村の総ての国、総ての地域社会の経済・社会・文化・福祉などに影響を及ぼし、国家と国民の生活基盤を根本的に揺さぶり、地域社会住民は新しい世界化の環境に適応しながら彼らの生活の基盤を新しく整備しなければならない課題を背負うこ

ととなった。

このように人類社会の流れと多辺化の理解と分析は、主に国家・民族・文明・文化などの巨視的な次元でなされてきた。しかし歴史の流れと変化の中で直接生活に影響を受ける国民と彼らの生活の基盤である地域社会次元で、人類の歴史と文明を理解しようとする努力は非常に微弱であったと思う。

封建主義、資本主義、帝国主義、植民地主義、社会主義、産業革命、科学・技術革命、世界化などの政治・経済・社会の概念や理念などは、人間の生命とその生命が実存し国家の礎となる地域社会・地域住民の福祉に絶対的な影響を与える制度と要因である。よってアジアのいろいろな国で世界共同体と歩調を合わせ、市民社会の公的活動が強化されており、このような市民社会はN G O s (Non-Governmental Organization)の形態で彼らの運命と生活の質を決定する責任ある主体となることを物語っている。

近代史の流れは西洋文明・技術に大きな影響を受けてきた。しかし 21 世紀の世界化時代の到来とともに我が地球村の歴史の流れとその方法をどの文明圏、どの文化、どの国家が先に引っ張っていく主役を担うのかという質問を投げかけている。

アジアの多くの国々は、アジアの未来と世界の未来を創造していく世界市民の歴史的役割の遂行で、今までは消極的に後部座席に座っていた受動的体制から、21 世紀にはアジア国家も世界のいろいろな国家と共に前席に出て、責任のある世界市民の主役を担う準備と覚悟ができたと言われている。すでに世界社会で主役を担ってきた何カ国と共に新しい世界経済強国として台頭してきた中国やインドの例を見ても 21 世紀の主役チームでアジア人は大きな貢献をするものと思う。

アジア人とアジア諸国は今、情熱的にアジアをヨーロッパや北米大陸のように経済・社会的に豊かな生活圏へと向上させ、世界社会に肯定的に貢献しようとして、より大きく新しいビジョン(Vision)を提示している。そして 21 世紀にこのビジョンを実現させるための使命(Mission)を持って多様な戦略

(Strategy)を樹立しており、また実践に移している。このような 21 世紀の世界舞台で、アジア人と国家の活発な活動に対する覚悟は、アジア諸国の地域社会次元でも見ることができる。世界化の過程は世界をアジアに、そしてアジアを世界に連結しているだけでなく、アジア国家の間にも世界化の結果で通信・交通網の発展を通じたアジア人の活発な交流、アジア社会での財政、資本、人力、情報の移動が頻繁になっており、各国の文化がアジアの共通的文化を創出しはじめている。

アジアでの世界化現象は、アジア人を個人、家庭、地域社会、地域次元で活発な交流をもたらしているだけでなく、彼らの特殊な福祉問題が各国の福祉問題、アジアの福祉問題へと浮上し始めた。韓国で問題となっている世界化の中のアジアの福祉文化問題は、「移住労働者と彼らの家族」、「多文化家族」、「早期留学による家族問題」など、新しい世界経済秩序の中で新しく適応しなければならない家庭と地域社会の経済生活など、少なくない問題が世界化家庭を通して現れている。

このような各家庭にぶつかる世界化の挑戦に対して、巨視的にはアジア諸国が共同体を形成し、対処していくことができるが、地域社会へ染み込む世界化の問題は、地域社会次元で、そしてアジア国家の地域社会と共同で対処していくことのできる方を講究しなければならないであろう。このような脈絡で本講演は 21 世紀の世界化時代にアジア国家の地域社会が新しく提議される福祉的機能と役割に対して簡略に考察する。

## II. 21 世紀の世界化過程とアジア国家の地域社会福祉問題に関する新しい認識

アジア諸国が政治、経済、社会、文化、福祉など 21 世紀の世界社会の舞台で主役を担う責任のある役割を遂行していくことができるかという質問に対して、ある世界の学者は疑問を提議している。彼らの提示する理由の一つは、米国のような経済大国は人種的融合可能性、経済・社会の適応性、総ての分野での成就範囲の可能性に対して、現在の人類社会では、そのような経済大国と競争できるアジアの国家は、未だないというものである。

21 世紀初にアジア国家が持っている長点があるとすれば、それは米国やヨーロッパ国家が耐え難い福祉費を手当しなければならない福祉制度を、アジアの国家は採っていないでいる点である。現在アジアの福祉問題は、国家と社会(地域社会を含む)が共同で責任を持つ福祉国家でない「福祉社会」の形態をとっているためだといえる。もちろんこのような国家の福祉責任限度に対する理論的な論争は、国家の福祉財政が制限され、各家庭や地域社会(市民社会)が福祉責任を分担しなければならないとき、地域社会が取る立場を決定するものである。

ここでアジア国家と地域社会が 21 世紀に注目しなければならない焦点は、21 世紀の国家の福祉的機能が、世界化の過程でどのように対処していかなければならないのかということである。また 21 世紀アジア地域、国家の間に提起される新しい福祉問題はどんなもので、そういう問題はアジア各国の地域社会内で具体的にどう表出し、地域社会の問題として浮上したのかに対する質問である。

またこのように新しく浮上する 21 世紀の福祉問題に対して、地域社会次元で政府・市民社会などとともに専門社会福祉界は、どうその福祉機能を再定立するのかも考慮する必要がある。アジア各国がすでに経験している「低出産・高齢化」の社会福祉問題や障害者福祉問題、貧困家庭福祉問題が、21 世紀世界化過程でどんな形態として現れ伝統的な福祉制度やサービス方法で継続して福祉機能を遂行できるかを点検する必要がある。

すでに移住労働者と彼らの家族を中心として現れている福祉問題は、一次的に該当国家の政府間の介入なくして解決できない問題(例、国内・外法、国際法、両国の社会保障制度など)が核心をなしている。しかし具体的な彼らの福祉問題は、我々が生きている地域社会内で現れ、このような問題の性格は該当国家の地域社会問題(家庭問題)も含まれ、両国の地域社会問題が複合的に現れている。

結局、世界化現象は地域社会福祉問題にも現れている。よって今まで長い伝統と文化を持ったアジアの地域社会福祉問題を定義し、その問題の解決

のためにアプローチするとき、我々が持っている既存のパラダイム(Paradigm)を脱して、新しい眼目と分析枠を持って地域福祉の理念定立、政策樹立、サービス伝達体系を再定立する必要があると思う。

### Ⅲ. 21 世紀世界化過程とアジア国家および地域社会の福祉問題

「考えは世界次元で、行動は地域次元で(Think Globally, Act Locally)」というキャッチフレーズは 20 世紀の遺産として、21 世紀世界化が受け入れられた現実において総てのアジア国家の生活で当面している挑戦的な課題でもある。地球村は温暖化(Global Warming)、貧困問題(Poverty Issue)、鳥類インフルエンザ(Avian Influenza)、HIV/AIDS 問題、エネルギー危機問題(Energy Crisis)、環境問題(Environmental Issue)、世界化(Globalization)問題は、アフリカや東南アジアなどの貧しい地域に局限された問題でなく、世界の総ての国家が遭遇する問題で、私たちが求めている地域共同体でも「考えは世界次元で、行動は地域次元で」を実践するしかない緊迫した問題として地域住民の福祉問題に大きな影響を及ぼしている。

#### 第 1 に、貧困の問題と移住労働者の人権、福祉問題

巨視的な次元でアジア諸国で惹起されている貧富の格差問題やこれによる社会の両極化問題は、我が生活の直接的な基盤である地域社会の安定に脅威となっている。もちろん、「低出産・高齢化」の人口学的現象は、日本、韓国、台湾、香港など多くの国家の教育体系、産業人力体系、福祉体系に深刻な影響を与え、アジア国家間の産業人力の移動を加速化させている。このような移住労働者の家族問題は、離散家族の発生、移住労働者の法的保護問題、移住労働者児童の 2 世教育問題を惹起する。

特に産業災害を被った時の医療補償問題、未払い賃金問題、移住労働者虐待問題など移住労働者の問題は、彼らの居住している地域社会の倫理的、法的問題として台頭し、彼らの日常生活での福祉問題は地域社会の問題として浮上している。

## 第 2 に、多文化家庭の出現と地域社会問題

韓国のように「低出産・高齢化」の人口学的問題は、また男女性比でも不均衡をもたらし、これにより結婚適齢期に達する青年が、外国人の新婦(特に東南アジア)と結婚し、多文化家族を構成するようになる。韓国のような多文化圏に接触する機会が少なかった地域社会で、外国人の新婦や彼らの混血家族を迎え、地域社会に統合させる地域共同体の課題は決して容易でない。

21 世紀アジアの(特に東北アジア地域国家)地域社会が、多文化家族を地域福祉共同体に受け入れる準備ができているのか自ら検討する必要がある。特に多文化家族を受け入れる価値観の定立、彼らの文化を包容できる雅量と態度など、アジア地域社会が準備する世界化の課題は非常に緊急である。

## 第 3 に、地球村の貧困問題、自然災難の問題、水不足問題、疾病(伝染病)の問題などに対するアジア地域社会の世界市民としての責任問題

アジアの絶対貧困者は、世界 60 億の人口中、10 億が絶対貧困に苦しんでおり、この内 2/3(6 億)がアジアに居住している。アジアの多くの国が貧困に喘ぎ、先進国、中進国隊列に入っても未だ東南アジアの多くの国々は絶対貧困に苦しんでいる。これらの大部分が一日米貨 1 ドルで延命し、児童が性売買の対象となり、児童労働の強要、アフリカの場合、少年・少女兵で弾除けの対象になっている。この貧しさを克服しようと彼らの父母が移住労働者として私たちの地域社会の中で労働しており、彼らが扶養しなければならない老父母や子供達は未だ絶対貧困の中で喘いでいる。

アジアの地域社会、特に経済問題がある程度解決した国家の地域社会が、他国の貧困地域社会の荷物を軽くしてあげなければならない世界市民としての倫理的責任に堪え得る意識の開発と価値観の定立はもちろん、直接貧困国家の救護・開発事業に参加する地域共同体とならなければならない挑戦を受けている。

#### 第 4 に、アジアの自然災害に対処できる国家的、地域社会的な能力培養の準備性

今までの世界災害統計によれば、60%以上の世界的自然災害がアジア国家で生じている。特に貧困な東南アジア国家の間で大きな自然災害が生じるとき、その国の国民、特に貧困な国民(老弱層、子供、障害者など)が経験する苦痛は深刻で、世界社会の援けなしには回復が難しいのが事実である。

すでにアジアの国家は隣国で災害を被ったときに国家や国連機構、そして民間団体を通じて救護活動を展開している。しかし 21 世紀の災難救護は各国家間の関係網だけでない地域社会間の関係網が早急に構築され、必要な救護資源(生命資源)の運送と活動が早急になされる体系構成が可能とならなければならない。

#### 第 5 に、アジア国家の間の急速な都市化現象が、既存の地域社会の崩壊と都市地域社会共同体形成の課題

近代福祉国家ないし福祉社会が成した国家でも地域社会の福祉機能は、必須的要素として残っているのは事実である。特に貧困階層が多数で構成されている地域社会の場合、国家の公式的社会保障プログラム(例、韓国の基礎生活報告プログラム)などの社会的保護プログラムだけでは、貧困家庭の福祉プログラムを解決できないことが大部分のアジア国家の実情である。よって既存の地域社会共同体を保護することと都市での地域共同体の形成は、21 世紀世界化を経験しているアジア圏でも絶対に必要である。

都市化で老弱階層が農村に残って、青年(壮年)が都市へ移動する場合、農村地域社会の再組織は都市へ移住した子女までも含めた新しい形態の地域社会が構成されなくてはならず、実際にそのような形態の新しい地域社会が構成されている(教会、地域住民、子女との連携網)。



## **第 6 に、移住労働者の母国にある地域社会共同体と居住する(韓国など) 現地域社会間の福祉関係網の形成**

世界化の趨勢は、通信、交通、移住の手段が容易にしている。アジアの多くの家族は都市化の傾向だけでなく、外国への留学、移住労働、外国駐在労働者などで離散家族が日増しに増加し、生活の質を落としている。

よって地域社会と各家庭は、国家化の地域社会網構築で両側の地域社会資源網(人的、文化的、物質的、制度的など)を動員し、世界化の中で不可避な離散家族の困難さを助けることのできる世界人道主義的な世界市民社会を地域社会の中に統合させる努力が必要であると思う。

## **第 7 に、21 世紀世界化過程で不可避的に交流するアジア(世界)の多様な 宗教を受け入れることのできるアジア地域社会の需要能力の増加**

地域社会の共同体生活で宗教の役割は、アジアの場合、非常に重要な意味を持つ。特に世界 5 大宗教(仏教、イスラム教、基督教、ヒンドゥー教、儒教など)がアジア地域で生まれ、各国は自国なりの特殊な民族宗教を持って社会統合を図っている。アジアでの宗教は地域社会を統合する純機能と同時に多くの場合、地域社会の分裂と深刻な葛藤を招来する重要な原因を提供することもある。

21 世紀世界化の趨勢は、多様な宗教が人間の移動、文化の移動、価値観の交流などで相互接触するほかなく、すでにこのような現象はアジア国家の総ての国々で現れている。アジア地域社会の中では、特定の宗教の根本主義を打ち出して世界化の中で地域社会発展に障害となる場合がある。

よって世界化の中でのアジア地域社会内での特定の宗教的な信仰と宗教儀式の施行は、世界社会の中で多様な宗教を認定し受容できる世界市民としての宗教的な雅量を施す能力を培養しなければならないと思う。即ち 21 世紀世界化の中で各個人とか地域共同体の宗教活動は、多文化世界社会という脈絡で宗教的衝突ないし文化的衝突よりは他宗教の許容、受容、共存などを通じて地域社会福祉共同体に貢献できなければならないと思う。

**第 8 に、アジアの地域社会は、世界およびアジアの貧・富両極化の格差を狭めるために地域社会次元での世界地域社会共同体的な努力が必要であると思う**

貧・富格差の両極化問題は、先進国であれ、中進国であれ、大部分の国家で経験している 21 世紀の深刻な問題である。このような両極化の問題（原因、結果、影響など）は、決してある特定国家の地域社会次元で解決できる問題でなくても、貧・富の両極化問題が与える悪影響は国家、社会、地域社会、家庭の総てに深刻に及ぼしている。このような脈絡でアジアの総ての国、地域社会で「Think Globally, Act Locally」の世界的な訴えに耳を傾けなければならない。

貧・富両極化の問題が、一国家内で生じる場合と諸大陸間、国家間で生じる場合、地域社会共同体が取らなければならない使命(Mission)と戦略は、21 世紀世界社会でそう困難でなく樹立できると思う。ここでは国内・外の政治を対象に社会行動(Social Action)を取らなければならない場合も生じるようになる。

**第 9 に、21 世紀アジアの地域社会が扱わなければならない地域社会の問題と世界地域社会問題の比重**

伝統的なアジアの地域社会は、地域共同体の中で台頭しているいろいろな政治、経済、社会、文化、福祉問題に対処する機能を遂行してきた。特に市民社会が主に扱う地域社会の福祉問題(救護、開発、擁護)に焦点を合わせてきた。また地域社会の伝統による地域文化行事に力を使ってきた。

近代になり、強力な政府機能の出現は、国家の理念や政策実現の手段として地域社会の伝統的な機能を活用する傾向が生まれた。このような場合、地域社会問題は巨視的国家問題に隠れ、地域社会の主導権が弱化する傾向があった。

地域社会の老人問題、障害者問題、青少年問題、児童養育問題などは、国

家の福祉政策と福祉予算の支援を必要とする国家地方・地域社会問題で、地域社会共同体の市民社会的、自発的努力は、別に意味を持たなくなっている。

このような脈絡で世界地域社会問題を地域共同体次元で意味ありげに扱うことを期待することは難しい。ここで NGO や国際奉仕団体(例、ロータリー、ライオンズ、ワイズメンなど)、宗教機関の主導的役割は大きな意味を持つと思う。結局、21 世紀のアジアの地域社会は国際 NGO とパートナーシップ(Partnership)を構成する必要がある。

アジアの地域社会は、地域福祉機能に対する国家の政策と福祉プログラムの施行に対する鋭い監視機能ができなければならない。例を挙げると、老人福祉に関連し、国家の福祉財政が可能であるのに拘らず、国家が福祉機能をしなるとか、または国家福祉機能の制約で老人福祉が難しくなる時、地域社会が責任を分担する責任のある国家市民としての機能遂行は、21 世紀世界社会の安寧と平和建設に貢献する結果となると思う。

#### IV. 21 世紀世界社会建設に貢献するアジア国家の地域社会再建の方向

21 世紀世界化(Globalization)過程が各国の地域社会(福祉)に大きく影響を及ぼしており、それゆえアジアの地域社会は、21 世紀世界化に責任ある世界地域社会と世界地域住民として責任ある世界社会的な機能(特に福祉機能)を果さなければならないという前提で本講演を展開している。

一つの国家や国家内のある地方社会へ伝統的なアジア地域社会の機能を遂行してきた伝統的地域社会が、21 世紀を相手に遂行しなければならない地域社会機能定立や遂行能力には限界があるのは事実である。一地方の地域社会が自身の地域福祉問題を解決するのもにも困難があるのに、なぜ世界地域社会問題を解決しなければならないという価値ないし動機(Motivation)誘発の難題が台頭する。

また 21 世紀世界地域社会を助けようとする価値と人道主義的な動機が誘

発されたとしても、どのようにしてその動機を遂行できる能力を培養できるのかという「能力培養」(Capacity Building)の教育／訓練の問題にも遭遇するようになる。ある地域社会が特定の世界地域社会問題を援けようとする動機(Motivation)を誘発させ、それを実現する能力(Capacity)を培養させ、世界地域社会福祉問題を解決する万端の準備ができたと仮定するとき、具体的に地球村のどの地域にある地域社会を援けることができるのかという奉仕機会(Service Opportunity)の具体的な創出と奉仕者の動員が必要である。

よってアジアの地域社会が、21 世紀世界化時代に世界地域社会を援ける世界地域住民の責任を担おうとするならば、世界に向けた地域社会としての確固とした動機(Motivation)、動機を実現できる能力培養(Capacity Building)、そして実際に奉仕できる機会(Opportunity)の創出が必要である。

## プロフィール

朴 宗 三 (ぱく・じょんさむ)

韓国 ワールドビジョン 会長

### 学歴

- 1996－1997 米国 South-East 家族および集団治療 Post-graduate 過程修了 (Diploma)
- 1972－1975 米国 University of Southern California(D. S. W. 社会事業学 博士)
- 1968－1970 米国 Virginia Commonwealth University(M. S. W.社会事業学 碩士)
- 1967－1968 米国 Princeton Theological Seminary (Th. M. 神学修士－牧会相談)
- 1965－1967 光州基督教病院 レジデント訓練課程 修了(歯科)
- 1960－1962 長老教 神学大学(神学士)
- 1956－1960 ソウル大学校 歯科大学(歯医学 学士)

### 経歴

- 2003－現在 社会福祉法人 ワールドビジョン (旧 韓国宣明会) 会長
- 2003－現在 韓国自願奉仕団体協議会 会長
- 2000－現在 サロム(老人)文化院(院長)
- 1998－現在 ソウル トクス教会(社会奉仕指導 牧師)
- 1996－現在 韓国教会社会奉仕研究所(所長)、韓国交流分析研究所(所長)
- 1990－2002 韓国社会福祉協議会 国際協力委員会(委員長)
- 1999－2001 崇実大学校 統一、社会福祉政策 大学院(院長)
- 1979－2001 崇実大学校 社会事業学科(教授)
- 1999－2001 韓国心理類型学会(会長)
- 1970－1998 光州ボイスタウン(無委託非行少年村)園長
- 1995－1996 韓国社会福祉学会(会長)
- 1992－1996 ソウル特別市 社会福祉協議会(副会長)
- 1986－1996 保健社会部 中央児童福祉委員会(委員、副委員長)
- 1982－1984 韓国社会事業(社会福祉)大学協議会(会長)

### 主要著書および論文

#### <著書>

- 朴宗三他(2002)、社会福祉学 概論、ハクチサ
- 朴宗三(2002)、教会社会奉仕 理解と実践、人間と福祉
- 朴宗三他(1998)、信仰の眼で見た学問、崇実大学校出版部、など総 約 20 余冊

#### <論文>

- 朴宗三他(1998)、「南北間社会統合のための統合福祉モデル研究」、社会福祉政策
- 朴宗三(1998)、「社会的要求と相談活動の拡大」、大学生生活研究、など総 約 100 余編

# 21세기 세계화 시대의 아세아 국가, 지역사회의 복지적 기능과 역할의 재정립 방향

박 종 삼  
한국 월드비전  
회장

## I. 서론

인류의 역사와 문명이 생긴 이래 지구촌 전체와 각국의 정치, 경제, 사회, 문화, 국사, 외교·복지 등은 끊임없이 지구촌의 여러 문명권과 제국들에 의해서 양향을 받아오고 있다. 그 대표적 예로써 앗수리아, 페르시아, 그리스, 로마 등의 통치와 지배의 시대를 위시하여 스페인, 포르투갈, 영국 등을 비롯한 유럽의 제국들이 그들의 영토확장과 식민지통치로써 세계역사의 흐름에 영향을 미쳤다.

이와 같은 인류의 역사는 20세기 중반에 이르러 산업혁명과 과학·기술문명의 영향아래 부의 축적과, 새로운 경제, 사회, 정치이념의 대두로 미국, 소련, 중국, 일본 등 강력한 세계의 열국들이 대립관계를 형성하여 세계 2차대전과 냉전시대라는 불행한 역사를 창출시켰다. 다행이도 20세기 후반기에 이르면서 지구촌 여러 곳에서 식민지통치의 종식과 동시에 아프리카, 아세아, 중남미의 여러 나라들이 독립을 하게 되어 각 나라마다 '국가건설(Nation Building)'이라는 희망찬 인류역사가 전개되게 되었다.

이미 우리가 진입한 21세기는 20세기의 과학기술 문명을 기반으로 새로운 세계 경제·사회·문화·통신제도와 질서 그리고 가버넌스(Governance)를 창출하여 세계사회와 각국에 엄청난 영향을 끼치고 있다. 세계화(Globalization)이라는 새로운 세계질서의 물결은 지구촌 모든 나라, 모든 지역사회 경제·사회·문화·복지 등에 영향을 미쳐 국가와 국민들의 생활터전을 근본적으로 흔들고 있어서, 지역사회주민들은 새로운 세계화의 환경에 적응하면서 그들의 삶

의 터전을 새롭게 정비해야 하는 과제를 안게 되었다.

이와 같은 인류역사의 흐름과 대변화의 이해와 분석은 주로 국가·민족·문명·문화 등의 거시적 차원에서 이루어져 왔다. 그러나 역사의 흐름과 변화 속에서 직접 생활에 영향을 받는 국민들과 그들의 삶의 터전인 지역사회차원에서 인류의 역사와 문명을 이해하려는 노력은 매우 미약했다고 본다.

봉건주의, 자본주의, 제국주의, 식민주의, 사회주의, 산업혁명, 과학·기술혁명, 세계화 등의 정치·경제·사회의 개념이나 이념 등은 인간의 생명과 그 생명들이 실존하여 한 국가의 초석을 이루는 지역사회·지역주민들의 복지에 절대적 영향을 미치는 제도와 요인들이다. 그러므로 아세아의 여러 나라에서 세계공동체와 보조를 맞추어 시민사회의 공적 활동이 강화되고 있고, 이런 시민사회는 NGOs(Non-Governmental Organization)의 형태로 그들의 운명과 삶의 질을 결정하는데 책임 있는 주체가 될 것을 주장하고 있다.

근대사의 흐름은 서양문명·기술에 지대한 영향을 받아왔다고 본다. 그러나 21세기 세계화시대의 도래와 함께 우리 지구촌 역사의 흐름과 그 방향을 어느 문명권, 어느 문화, 어느 국가들이 앞장서 끌고 나가는 주역을 맡을 것인가 라는 질문을 던지고 있다.

아세아의 많은 나라들은 아세아의 미래와 세계의 미래를 창조해 나가는 세계시민의 역사적 역할 수행에서 지금까지 소극적으로 뒷좌석에 앉고 있던 수동적 태세에서 21세기에는 아세아 국가들도 세계의 여러 국가들과 함께 앞좌석에 나서서 책임 있는 세계시민의 주역을 맡아갈 준비와 각오가 되었다고 세계사회는 보고 있다. 이미 세계사회에서 주역을 맡아온 몇 나라와 함께 새로운 세계경제강국으로 대두한 중국이나 인도의 예를 본다고 해도 21세기의 주역팀에서 아세아인들은 큰 공헌을 하리라고 본다.

아세아인들과 아세아의 여러 나라들은 지금 열정적으로 아세아를 유럽이나 북미대륙처럼 경제·사회적으로 풍요한 생활권으로 향상시키며 세계사회에 긍정적으로 공헌하고자 보다 크고 새로운 비전(Vision)을 제시하고 있다. 그리고 21세기에 이 비전을 실현시키기 위한 사명(Mission)을 가지고 다양한 전략(Strategy)을 수립하고 있고, 또한 실천에 옮기고 있다. 이와 같은 21세기

세계무대에서 아세아인들과 국가들의 활발한 활동에 대한 각오는 아세아 여러 나라의 지역사회차원에서 볼 수 있다. 세계화의 과정은 세계를 아세아로, 그리고 아세아를 세계로 연결시키고 있을 뿐만 아니라, 아세아국가들 사이에서도 세계화의 결과로 통신·교통망의 발전을 통한 아세아인들의 활발한 교류, 아세아사회에서의 재정, 자본, 인력, 정보의 이동이 빈번해지고 있고, 각국의 문화가 아세아의 공통적 문화를 창출하기 시작하고 있다.

아세아에서의 세계화현상은 아세아인들을 개인, 가정, 지역사회, 지역 차원에서 활발한 교류를 가져오고 있을 뿐만 아니라, 그들의 특수한 복지문제가 각국의 복지문제, 아세아의 복지문제로 부각되기 시작하였다. 한국에서 봉착하고 있는 세계화속의, 아세아의 복지문제들은 ‘이주노동자와 그들의 가족’, ‘다문화 가족’, ‘조기유학에 따르는 가족문제’, 새로운 세계경제질서 속에서 새롭게 적응해야 하는 가정들과 지역사회의 경제생활 등 적지 않은 문제들이 세계화과정을 통해 나타나고 있다.

이러한 각 가정에 부딪치는 세계화의 도전에 대해서 거시적으로는 구각단위나 아세아 여러 국가들이 공동체를 형성하여 대처해 나갈 수 있겠지만, 지역사회로 스며드는 세계화의 문제들은 지역사회 차원에서, 그리고 아세아 국가들의 지역사회들과 공동으로 대처해 나갈 수 있는 방안을 강구해야 할 것이다. 이런 맥락으로 본 강연은 21세기 세계화 시대에 아세아 국가의 지역사회가 새롭게 제기되는 복지적 기능과 역할에 대해서 간략하게 고찰하고자 한다.

## II. 21세기 세계화 과정과 아세아국가들의 지역사회 복지문제에 관한 새로운 인식

아세아 여러 나라들이 정치, 경제, 사회, 문화, 복지 등 21세기 세계 사회무대에서 주역을 맡고 책임 있는 역할을 수행해 나갈 수 있는가 라는 질문에 대해 어떤 세계의 학자들은 의문을 제기하고 있다. 그들의 제시하는 이유 중의 하나는 미국과 같은 경제대국은 인종적 융합가능성, 경제·사회의 적응성, 모든 분야에서의 성취범위 가능성에 대해서 현재 인류사회에서 그런 경제대국과 경쟁할 수 있는 아세아의 국가들은 아직은 없다는 것이다.



21세기 초반에 아세아 국가들이 가지고 있는 장점이 있다면 그것은 미국이나 유럽처럼 국가가 감당할 수 없는 복지비를 충당해야 하는 복지제도를 아세아의 국가들은 채택하지 않고 있다는 것이다. 현재 아세아의 복지문제는 국가와 사회(지역사회를 포함)가 공동으로 책임지는 복지국가 아닌 ‘복지사회’의 형태를 취하고 있기 때문이라는 것이다. 물론 이와 같은 국가의 복지책임한도에 대한 이론적 논쟁은 국가의 복지재정이 제한되어 각 가정이나 지역사회(시민사회)가 복지책임을 분담해야 한다고 할 때 지역사회가 취할 입장은 어떤 것인가를 결정하는 일이다. 특별히 세계화과정에서 이주노동자, 조기유학생 등 아세아 여러 나라의 복지문제가 지역사회로 침투할 때, 아세아의 지역사회는 어떻게 대처해 나갈 것인지를 선택해야 할 것이다.

여기에서 아세아 국가들과 지역사회들이 21세기에 주목해야 할 초점은, 21세기의 국가의 복지적기능이 세계화의 과정에서 어떻게 대처해 나가느냐 하는 것이다. 또한 21세기 아세아지역, 국가들 사이에서 제기되는 새로운 복지문제들은 어떤 것이며, 그런 문제들은 아세아 각국의 지역사회 안에서 구체적으로 어떻게 표출되어 지역의 문제로 부각되어지는지에 대한 질문이다.

또한 이런 새롭게 부각되는 21세기의 복지문제들에 대하여 지역사회 차원에서, 정부·시민사회 등과 함께 전문사회 복지계는 어떻게 그 복지기능을 재정립할 것인지 고려해야 할 것이다. 아세아의 여러 나라가 이미 겪고 있는 ‘저출산 고령화’의 사회복지문제나 장애인 복지문제, 빈곤가정 복지문제가 21세기 세계화 과정에서 어떤 형태로 나타나며 전통적인 복지제도나 서비스 방법으로 계속 복지기능을 수행할 수 있는지도 점검할 필요가 있다.

이미 이주노동자와 그들의 가족을 중심으로 나타나는 복지문제는 일차적으로 해당국가의 정부간 사이의 개입이 없이는 해결할 수 없는 문제들(예, 국내·외법, 국제법, 양국의 사회보장제도 등)이 핵심을 이루고 있다. 그러나 구체적인 그들의 복지문제는 우리가 살고 있는 지역사회 내에서 나타나며, 이런 문제의 성격은 해당국가의 지역사회문제(가정문제)도 포함되어 양국 지역사회문제들이 복합적으로 나타나게 된다.

결국 세계화 현상은 지역사회 복지문제에도 나타나게 도니다. 그러므로 지금까지 오랜 전통과 문화를 지닌 아세아의 지역사회 복지문제를 정의하고 그

문제를 해결하려고 접근할 때, 우리가 지니고 있는 기존의 패러다임(Paradigm)을 벗어나 새로운 안목과 분석틀을 가지고, 지역복지의 이념정립, 정책수립, 서비스 전달체계를 재정립할 필요가 있다고 본다.

### Ⅲ. 21세기 세계화과정과 아세아국가 및 지역사회들의 복지문제들

“생각은 세계차원에서 행동은 지역차원에서(Think Globally, Act Locally)”라는 구호는 20세기의 유산으로 21세기 세계사회가 받아드린 현실로 모든 아세아국가의 생활에서 당면하고 있는 도전적 과제이기도 하다. 지구촌 온난화(Global Warming), 빈곤문제(Poverty Issue), 조류인플루엔자(Avian Influenza), HIV/AIDS 문제, 에너지 위기문제(Energy Crisis), 환경문제(Environmental Issue), 세계화(Globalization)문제들은 아프리카나 동남아 등 가난한 지역에 국한된 문제가 아니고 세계 모든 나라, 아세아의 모든 국가들이 봉착하고 있는 문제로 우리가 찾고 있는 지역 공동체에서도 “생각은 세계차원에서, 행동은 지역차원에서” 실천할 수밖에 없는 긴박한 문제로 지역주민의 복지문제에 지대한 영향을 미치고 있다.

#### 첫째, 빈곤의 문제와 이주노동자의 인권, 복지문제

거시적인 차원에서 아세아 여러 나라에서 야기되고 있는 빈부의 격차문제나 이로 인한 사회의 양극화 문제는 우리 삶의 직접적 터전인 지역사회의 안정을 위협하고 있다. 물론 ‘저출산 고령화’의 인구학적 사회적 현상은 일본, 한국, 대만, 홍콩 등 많은 국가의 교육체계, 산업인력체계, 복지체계에 심각한 영향을 일으켜 아세아국가간의 산업인력의 이동을 가속화시키고 있다. 이런 이주노동자들의 가족문제는 이산가족의 발생, 이주노동자들의 법적보호문제, 이주노동자 아동들의 2세 교육문제가 야기되고 있다.

특별히 산업재해를 입었을 때의 의료보장문제, 체불임금문제, 이주노동자 학대문제 등 이주노동자의문제는 그들이 거주하고 있는 지역사회의 윤리적, 법적 문제로 대두되며, 그들의 일상생활에서의 복지문제는 지역사회의 문제로 부각된다.

## 둘째, 다문화 가정의 출현과 지역사회문제

한국과 같이 '저출산 고령화'의 인구학적 문제는 또한 남녀성비에서도 불균형을 이루고, 이로써 결혼 적령기에 도달한 청년들이 외국인 신부(특히 동남아)와 결혼하게 되어 다문화가족을 이루게 된다. 한국과 같이 다문화권에 접촉할 기회가 적었던 지역사회에서 외국인 신부나 그들의 혼혈가족을 맞이하여 지역사회에 통합시키는 지역공동체적 과제는 결코 쉽지 않다.

21세기 아세아의(특히 동북아시아 국가) 지역사회가 다문화가족을 지역복지공동체로 받아드릴 준비가 되어 있는지 스스로 검토할 필요가 있다. 특별히 다문화가족을 받아드릴 가치관의 정립, 그들의 문화를 포용할 수 있는 아량과 태도 등 아세아 지역사회가 준비할 세계화의 과제는 매우 시급하다.

## 셋째, 지구촌의 빈곤문제, 자연재난의 문제, 물 부족 문제, 질병(전염병)의 문제 등에 대한 아세아 지역사회의 세계시민으로서의 책임문제

아세아의 절대빈곤자는 세계 60억 인구 중 10억이 절대빈곤에 시달리고 있고, 이 중 2/3(6억)가 아세아에 거주하고 있다. 아세아의 “많은 나라들이 빈곤을 떨치고 선진국, 중진국 대열에 진입하고 있는데 아직도 동남아의 많은 나라들은 절대빈곤에 시달리고 있다. 이들 대부분이 하루에 미화 1달러로 연명하고 아동들이 성매매 대상, 아동노동의 강요, 아프리카의 경우 소년·소녀병으로 총알받이의 대상이 되고 있다. 이 가난을 극복하려고 그들의 부모들이 이주노동자로 우리 지역사회 속에서 노동하고 있으며 그들이 부양하여야 할 노부모나 자식들은 아직도 절대빈곤 속에서 허덕이고 있다.

아세아의 지역사회, 특별히 경제문제가 어느 정도 해결된 국가의 지역사회가 타국의 빈곤 지역사회의 짐을 덜어주어야 하는 세계시민으로서의 윤리적 책임을 감당할 수 있는 의식의 개발과 가치관의 정립은 물론 직접 빈곤국가의 구호·개발사업에 참여하는 지역공동체가 되어야 할 도전을 받고 있다.

## 넷째, 아세아의 자연재해에 대처할 수 있는 국가적, 지역사회적 능력배양의 준비성

지금까지 세계재해 통계에 따르면 60%이상의 세계적 자연재해가 아세아 국

가들에서 생기는 것으로 되어 있다. 특별히 빈곤한 동남아국가들 사이에서 큰 자연재해가 생기게 될 때, 그 나라 국민들, 특히 빈곤한 국민들(노약층, 어린이, 장애인등)이 겪는 고통은 심각하며 세계사회의 도움이 없이는 회복하기가 힘든 것이 사실이다.

이미 아세아의 국가들은 이웃나라에서 재해를 당했을 때 국가나 유엔기구, 그리고 민간단체를 통해 구호활동을 전개하고 있다. 그러나 21세기의 재난 구호는 각 국가간의 관계망 뿐 이 아닌 지역사회간의 관계망이 조속히 구축되어 필요한 구호자원(생명자원)의 운송과 활동이 조속히 이루어질 수 있는 체계구성이 가능해야 할 것이다.

#### **다섯째, 아세아 국가들 사이에서 급속한 도시화 현상이 기존 지역사회의 붕괴와 도시지역사회 공동체 형성문제**

근대복지국가 내지 복지사회가 이룩한 국가에서도 지역사회의 복지기능은 필수적인 요소로 남아 있는 것이 사실이다. 특히 빈곤계층이 다수로 구성된 지역사회의 경우 국가의 공식적 사회보장 프로그램(예, 한국의 기초생활보고 프로그램)등의 사회적 보호 프로그램만으로는 빈곤가정의 복지프로그램을 해결할 수 없는 것이 대부분의 아세아국가들의 실정이다. 그러므로 기존의 지역사회 공동체를 보호하는 일과 도시에서의 지역공동체의 형성은 21세기 세계화를 겪고 있는 아세아권에서도 절대로 필요하다.

도시화로 노약계층이 농촌에 남아있고 청년들(장년들)이 도시로 이동하는 경우 농촌지역사회의 재조직은 도시로 이주한 자녀들까지도 포함된 새로운 형태의 지역사회가 구상되어야 하며, 실제로 그런 형태의 새로운 지역사회가 구성되고 있다(교회, 지역주민, 자녀들과의 연계망)

#### **여섯째, 이주노동자의 모국에 있는 지역사회 공동체와 그들이 거주하는(한국 등) 현 지역사회간의 복지관계망 형성**

세계화의 추세는 통신, 교통, 이주의 수단이 용이하게 이루어지고 있다. 아세아의 많은 가족들은 도시화의 경향뿐만 아니라 외국으로의 유학, 이주노동, 외국주재 노동자 등으로 이산가족들이 날로 증가하여 삶의 질을 떨어뜨리고 있다.

그러므로 지역사회와 각 가정들은 국가간의 지역사회망 구축으로 양쪽의 지역사회 자원망(인적, 문화적, 물질적, 제도적 등)을 동원하여 세계화속에 불가피한 이산가족의 어려움을 도와줄 수 있는 세계인도주의적 세계시민사회를 지역사회 속에 통합시키려는 노력이 필요하다고 본다.

### **일곱째, 21세기 세계화과정에서 불가피하게 교류되는 아세아(세계)의 다양한 종교를 수용할 수 있는 아세아 지역의 수용능력 증가**

지역사회의 공동체 생활에서 종교의 역할은 아세아의 경우 매우 중요한 의미를 지닌다. 특별히 세계 5대종교(불교, 이슬람교, 기독교, 힌두교, 유교 등)가 아세아 지역에서 생겼고 각 나라는 자기 나름대로의 특수한 민족종교를 가지고 사회통합을 도모하고 있다. 아세아에서의 종교는 지역사회를 통합시키는 순기능과 동시에 많은 경우 지역사회의 분열과 심각한 갈등을 초래시키는 중요한 원인을 제공하기도 한다.

21세기 세계화 추세는 다양한 종교가 인간의 이동, 문화의 이동, 가치관의 교류 등으로 상호접촉 할 수밖에 없고, 이미 이러한 현상은 아세아 국가들의 모든 나라에서 나타나고 있다. 아세아 지역사회들 중에는 특정한 종교의 근본주의를 내세워 세계화속에서의 지역사회발전에 장애가 되는 경우가 있다.

그러므로 세계화속에서의 아세아 지역사회 내에서의 특정한 종교적 신앙과 종교의식의 시행은 세계사회 속에서 다양한 종교를 인정하고 수용할 수 있는 세계시민으로서의 종교적 아량을 베풀 수 있는 능력을 배양해야 한다고 본다. 즉 21세기 세계화속의 각 개인이나 지역공동체의 종교 활동은 다문화 세계사회라는 맥락에서 종교적 충돌 내지 문화적 충돌 보다는 타종교의 허용, 수용, 공존 등을 통하여 지역사회 복지공동체에 공헌할 수 있어야 한다고 본다.

### **여덟째, 아세아의 지역사회들은 세계 및 아세아의 빈·부 양극화의 격차를 좁히기 위해 지역사회 차원에서의 세계지역사회 공동체적 노력이 필요하다고 본다.**

빈·부 격차의 양극화 문제는 선진국이건 중진국이건 대부분의 국가에서 겪고

있는 21세기의 심각한 문제이다. 이런 양극화의 문제들은(원인, 결과, 영향 등) 일단코 어떤 특정국가의 지역사회 차원에서 해결될 문제는 아니더라도, 이런 빈·부의 양극화 문제가 끼치는 악영향은 국가, 사회, 지역사회, 가정 모두에게 심각하게 미치고 있는 것이 사실이다. 이런 맥락에서 아세아의 모든 나라 지역사회에서 “Think Globally, Act Locally”의 세계적 호소에 귀를 기울여야 한다.

빈부양극화의 문제가 한 국가 내에서 생겼을 경우와 여러 대륙간, 국가간에서 생길 경우 지역사회 공동체가 취하여야 할 사명(Mission)과 전략은 21세기 세계사회에서 어렵지 않게 수립할 수 있다고 본다. 여기에는 국내·외 정책을 대상으로 사회행동(Social Action)을 취해야 하는 경우도 생기게 된다.

### **아홉째, 21세기 아세아의 지역사회가 다루어야 할 지역의 문제와 세계 지역사회 문제의 비중**

전통적 아세아의 지역사회들은 지역공동체 안에서 대두되는 여러 가지 정치, 경제, 사회, 문화, 복지문제들에 대처하는 기능을 수행했고, 특히 시민사회가 주로 다루게 되는 지역의 복지문제들(구호, 개발, 옹호)에 초점을 맞추었다. 또한 지역의 전통에 따른 지역문화행사에 힘을 써왔다.

근래에 이르러 강력한 정부기능의 출현은 국가의 이념이나 정책실현의수단으로 지역의 전통적 기능을 활용하는 경향이 생기게 되었다. 이런 경우 지역사회문제는 거시적 국가문제에 가리워져 지역의 주도권이 약화되는 경향이 있었다.

지역사회의 노인문제, 장애인문제, 청소년문제, 아동양육문제 등은 국가의 복지정책과 복지예산의 뒷받침을 필요로 하는 국가·지방·지역사회문제임으로 지역사회 공동체의 시민 사회적, 자발적 노력은 별로 의미를 가지지 못하고 있다.

이런 맥락에서 세계지역사회문제를 지역공동체 차원에서 의미 있게 다룬다는 것은 결코 기대하기 어려운 일이다. 여기에서 NGO나 국제봉사단체(예, 로타리, 라이온즈, 와이즈맨 등), 종교기관의 주도적 역할은 큰 의미를 갖는다고 본다. 결국 21세기의 아세아의 지역사회들은 국제 NGO들과 파트너십(Partnership)을 구성할 필요가 있다.

아세아의 지역사회들은 지역복지기능에 대한 국가의 정책과 복지프로그램의 시행에 대한 날카로운 감시기능을 할 수 있어야 한다. 예를 들어서 노인복지에 관련하여 국가의 복지재정이 감당할 수 있음에도 불구하고 국가의 복지기능을 하지 않는다면, 또는 국가복지기능의 제약으로 노인복지가 어려워졌을 때 지역사회가 책임을 분담하는 책임 있는 국가시민으로서의 기능수행은 21세기 세계사회의 안녕과 평화건설에 공헌하는 결과가 된다고 본다.

#### IV. 21세기 세계사회건설에 공헌할 아세아국가들의 지역사회재건의 방향

21세기 세계화(Globalization) 과정이 각국의 지역사회(복지)에 크게 영향을 미치고 있으며 그러므로 아세아의 지역사회들은 21세기 세계화에 책임 있는 세계지역사회와 세계지역주민으로 책임 있게 그 세계사회적 기능(특히 복지적 기능)을 감당해야 한다는 전제에서 본 강연을 전개시키고 있다.

한국이나 그 국가 내 한 지방의 지역사회로 전통적 아세아지역사회의 기능을 수행해 온 전통적 지역사회가 21세기를 상대로 수행해야 하는 지역사회 기능정립이나 수행능력에는 한계가 있는 것이 사실이다. 한 지방의 지역사회가 자신들의 지역복지문제를 해결하는데도 어려움이 있는데 왜 세계지역사회문제를 해결해 주어야 하는가 하는 가치 내지 동기(Motivation) 유발의 난제가 대두된다.

또한 21세기 세계지역사회를 돕자는 가치와 인도주의적 동기가 유발되었다 해도 어떻게 그 동기를 수행할 수 있는 능력을 배양할 수 있는가 라는 ‘능력 배양’(Capacity Building)의 교육/훈련의 문제에도 봉착하게 된다. 어떤 지역사회가 특정한 세계지역사회문제를 도우려는 동기(Motivation)를 유발시키고, 그것을 실현할 능력(Capacity)을 배양시켜 세계지역사회복지문제를 해결할 만반의 준비가 되었다고 가정할 때, 구체적으로 지구촌 어느 지역에 있는 지역사회를 도울 수 있는가라는 봉사기회(Service Opportunity)의 구체적 창출과 봉사자의 동원이 필요하다.

그러므로 아세아의 지역사회가 21세기 세계화시대에 세계지역사회를 돕는

세계지역주민의 책임을 감당하려고 한다면 세계를 향한 지역사회로서의 확고한 동기(Motivation), 동기를 실현할 수 있는 능력배양(Capacity Building), 그리고 실제로 봉사할 수 있는 기회(Opportunity) 창출이 필요하다.



## 프로필

### 박 종 삼 (朴 宗 三)

한국 월드비전 회장

송실대학교, 사회복지학과 명예교수

한국해의원조합의회 회장

### 학 력

- 1996 - 1997 미국 South-East 가족 및 집단치료 Post-graduate 과정수료(Diploma)
- 1972 - 1975 미국 University of Southern California(D. S. W. 사회사업학 박사)
- 1968 - 1970 미국 Virginia Commonwealth University (M. S. W. 사회사업학 석사)
- 1967 - 1968 미국 Princeton Theological Seminary (Th. M. 신학석사 - 목회상담)
- 1965 - 1967 광주기독교병원 레지던트 훈련과정 수료(치과)
- 1960 - 1962 장로교 신학대학(신학사)
- 1956 - 1960 서울대학교 치과대학 (치의학 학사)

### 경 력

- 2003 - 현재 사회복지법인 월드비전(구, 한국선명회) 회장
- 2003 - 현재 한국자원봉사단체협의회 회장
- 2000 - 현재 살롬(노인)문화원(원장)
- 1998 - 현재 서울 덕수교회(사회봉사지도 목사)
- 1996 - 현재 한국교회사회봉사연구소(소장), 한국교류분석연구소(소장)
- 1990 - 2002 한국사회복지협의회 국제협력위원회(위원장)
- 1999 - 2001 송실대학교 통일. 사회복지정책 대학원(원장)
- 1979 - 2001 송실대학교 사회사업학과 (교수)
- 1999 - 2001 한국심리유형학회(회장)
- 1970 - 1998 광주보이스 타운(무의탁 비행청소년 마을)원장
- 1995 - 1996 한국사회복지학회(회장)
- 1992 - 1996 서울특별시 사회복지협의회(부회장)
- 1986 - 1996 보건사회부 중앙아동복지위원회(위원, 부위원장)
- 1982 - 1984 한국사회사업(사회복지)대학 협의회 (회장)

### 주요 저서 및 논문

#### <저서>

- 박종삼 외 (2002), 사회복지학 개론, 학지사
- 박종삼(2002), 교회사회봉사 이해와 실천, 인간과 복지.
- 박종삼 외(1998), 신앙의 눈으로 본 학문, 송실대학교 출판부. 등 총 약 20여권

#### <논문>

- 박종삼 외(1999), “남북한 사회통합을 위한 통합복지모델 연구”, 사회복지정책
- 박종삼(1998), “사회적 요구와 상담활동의 확대”, 대학생활연구. 등 총 약 100여편